

(4) ビジョンにおける「注視する指標」

基本理念及び目指す姿に近付いているかを検証するための参考指標として、毎年、県内20歳以上の男女を対象に、インターネットによる「生活の向上感・充実感に関する意識調査」を行い、その推移等を注視しながら、施策を推進することとしている。

今回(平成29年度)の調査では、「去年と比べた生活の向上感」について、「向上している」と回答した人の割合は12.1%で、平成27年度の9.8%と比べて2.3ポイントの増加となっている。

生活の向上を感じるために必要な要素としては、「所得・収入の増加」を挙げる人が7割以上と最も多く、次に「自由な時間(余暇・ゆとり)の増加」を3割以上の人が挙げている。

「現在の生活の充実感」については、「充実感を感じている」「十分感じている」及び「まあ感じている」と回答した人の割合は59.3%で、平成27年度の57.2%と比べて2.1ポイントの増加となっている。

日頃の生活の中で、どのような時に充実感を感じるかという問いに対しては、「ゆったりと休養しているとき」を挙げた人の割合が最も多く、「趣味やスポーツに熱中しているとき」、「家族団らんのとき」などの順位になっている。

こうした生活の向上感・充実感の増加の背景には、仕事も暮らしもあきらめず、どちらも充実させる「欲張りなライフスタイル」の実現に近づいている人が増えていることがあると考えられる。

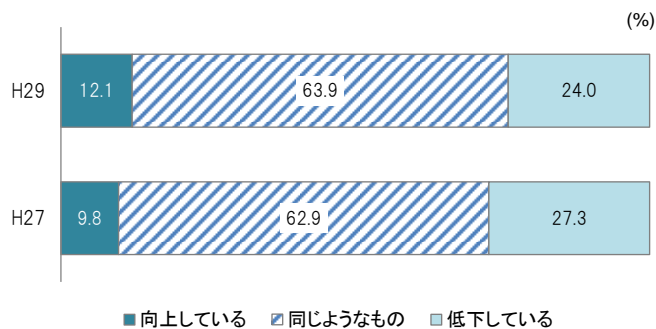
「仕事と暮らしの考え方」について、「仕事も暮らしも充実させたいが、仕事が忙しく、暮らしの充実にはあきらめている」は9.3%と、平成27年度の10.4%と比べて1.1ポイント減、「仕事も暮らしも充実させたいが、育児や介護・家事などの事情があり、仕事はセーブしている」は9.3%と、平成27年度の9.4%から0.1ポイント減となっており、県内企業等における働き方改革や育児・介護と仕事の両立支援、多様な保育環境の整備などの取組が寄与していると考えられることから、引き続きこれらの取組を推進していく必要がある。

一方で、「仕事も暮らしも充実させたいと思い、取り組んでいる」は31.8%で、平成27年度の36.2%と比べて4.4ポイント減少した。また、「長時間働かないと必要な収入を得られないので、暮らしを犠牲にして働いている」が0.4ポイント増、「日々の仕事や生活に追われているので、仕事も暮らしも欲張るなんて非現実的だと思う」が2.7ポイント増となった。

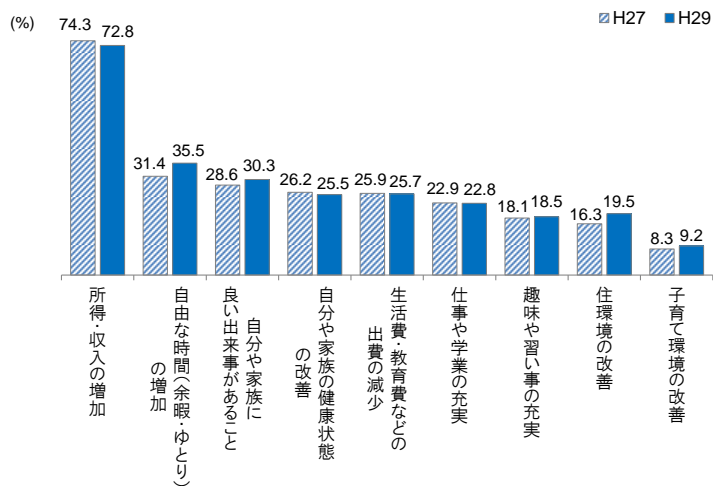
県内の経済雇用情勢は、一人当たりの県民所得が平成25年から平成27年度まで3年連続でプラスとなり、景気も緩やかな拡大傾向にあり、有効求人倍率も高い水準を維持しているなど好調な状況が続いているが、こうした豊かさを県民の皆さんがまだ十分に実感できていない状況であり、また、育児や介護など、暮らしの中で不安や負担感を抱えている人も一定程度存在すると考えられる。

そのため、引き続き、県内産業の生産性向上を図ることによって、県内経済の持続的成長を実現していくとともに、子育ての不安や負担感を軽減する取組や貧困の世代間連鎖を断ち切るための対策、地域で医療・介護を安心して受けられる体制の構築など、「欲張りなライフスタイル」の実現を阻害する様々な要因を解消するための取組を一層推進していく必要がある。

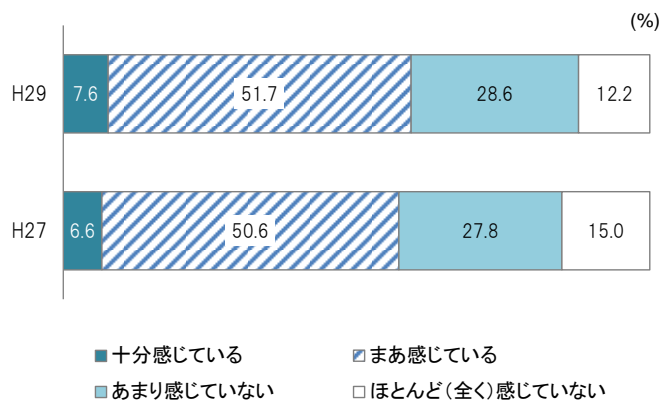
◇去年と比べた生活の向上感



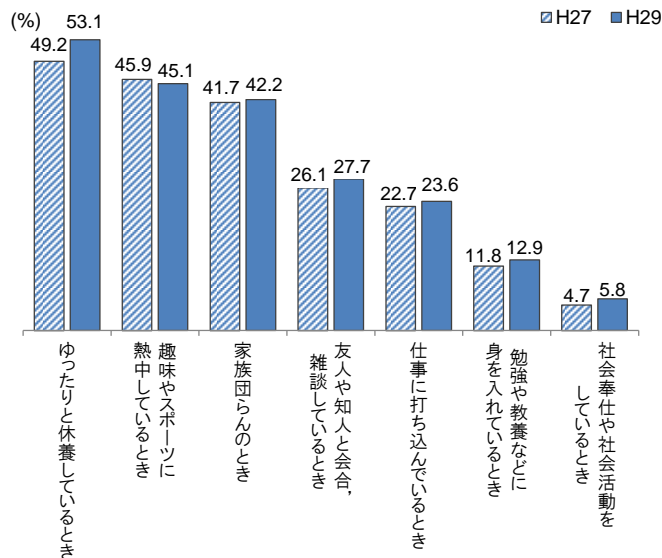
◇生活の向上を感じるために必要なこと(複数回答可)



◇現在の生活の充実感



◇どんな時に充実感を感じるか(複数回答可)



◇仕事と暮らしの考え方

